

事務事業名	食の自立支援事業		所属部局	保健福祉部		単位番号	T463						
			所属課室	介護福祉課		課長名	樋口敏明						
	☐ 実施計画事業		所属担当	高齢者福祉担当		担当者名	齋藤順子						
基本政策	基本計画体系	IV	快適で心のかよいあう都市づくり		予算科目	会計	名称	款	項	目	細目	細々目	
政 策		17	社会福祉の充実		事業区分	☒ 国の制度による義務的事業 ☐ 県の制度による義務的事業 ☐ 市の制度による義務的事業 ☐ 義務化されている協議会等の負担金	☐ 施設等維持管理事業 ☐ 補助金交付事業 ☒ その他の事業						
施策		29	高齢者福祉の充実										
事業期間	☐ 単年度のみ ☐ 単年度繰返（開始年度 年度） ☒ 期間限定複数年度（ 24 ～ 26 年度）		法令根拠	介護保険法115条の44 南アルプス市食の自立支援事業実施要									
事務事業の概要	事業の内容・・・期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載 65歳以上で調理が困難な在宅のひとり暮らし高齢者及び高齢者のみの世帯に、食事（お弁当）をお届けするとともに安否確認をおこなう配食サービス。個人負担金として1食300円 昼食のみ 南アルプス市社会福祉協議会へ委託					事業費の主な内訳（ 24年度 決算見込）							
						項目(細節)		金額(千円)		項目(細節)		金額(千円)	
						委託料		9,279					
										計		9,279	

1 現状把握(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 活動	
24年度活動実績	申請に基づき、審査し決定。利用料の徴収 利用者の状況調査
25年度活動予定	同上
② 対象(この事務事業は誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	
65歳以上のひとり暮らし高齢者及び高齢者のみの世帯で調理が困難な方	
③ 意図(この事務事業により対象をどのような状態にしていくのか、どのように変えるのか)	
食生活の改善と安否確認	
④ 上位目的(どのような結果に結び付けるのか)	
高齢者が在宅で安心して生活できる	

⇒ ⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア:新規申請件数	件
イ:利用者数	人
ウ:	
⇒ ⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア:65歳以上在宅ひとり暮らし高齢者	人
イ:高齢者のみの世帯	世帯
ウ:	
⇒ ⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア:延配食数	食
イ:延利用者数	人
ウ:	
⇒ ⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア:高齢者支援に対する満足度(市民アンケート)	%
イ:	

(2) 事業費・指標の推移				単位	23年度 (決算・実績)	24年度 (決算見込・実績)	25年度 (予算・目標)	26年度 (次年度計画・目標)	27年度 (計画・目標)	28年度 (計画・目標)	最終 (トータルコスト・目標)	年度
年間 トータル コスト	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円								
			県支出金	千円								
			地方債	千円								
			その他	千円	6,710	5,405	2,700	2,700				
			一般財源	千円	4,808	3,874	2,553	2,553				
	人件費	事業費計 (A)		千円	11,518	9,279	5,253	5,253	0	0	0	
		正規職員従事人数		人	1	1	1	1				
		延べ業務時間		時間	50	50	50	50				
		人件費計 (B)		千円	198	198	198	198	0	0	0	
		(A)+(B)		千円	11,716	9,477	5,451	5,451	0	0	0	
活動指標	ア イ ウ	件 人			26.0 114.0	20.0 130.0	20.0 130.0	20.0 130.0				
対象指標	ア イ ウ	人 世帯			2,059.0 2,184.0	2,188.0 2,278.0	2,059.0 2,184.0	2,059.0 2,184.0				
成果指標	ア イ ウ	食 人			21,075.0 1,130.0	24,000.0 1,130.0	24,000.0 1,130.0	24,000.0 1,130.0				
上位成果指標	ア イ	%			25.7	27.4	27.4	27.4				

(3)この事務事業を取り巻く状況(対象者・社会状況等)の変化、市民意見等

① この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか？	介護保険法による地域支援事業創設により、介護支援のため開始
② 事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べどう変化しているか？また、今後の予測は？	ひとり暮らし高齢者及び高齢者世帯の増加に伴い、利用者も増えている
③ 事務事業に対して関係者(市民、事業対象者、議会等)からどんな意見・要望が寄せられているか？	お弁当の内容の統一、改善

(4) 改革改善の取り組み状況

① 改革改善の取り組み実施は？	☒ 取り組みしている ⇒【内容↓】 ☐ 取り組みしていない ⇒【理由↓】
② これまでの改革改善の取り組み状況・経過（取り組みしていない場合はその理由）	高齢者システムの導入による利用者情報の管理。 お弁当の内容等の調査(改善依頼)
③ H 24年度に実施した改革改善の内容	アセスメント表の修正

事務事業名	食の自立支援事業	所属部	保健福祉部	所属課	介護福祉課
-------	----------	-----	-------	-----	-------

2 評価(Check1)担当者による事後評価(複数年度事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？意図が上位目的に結びついているか？	☐ 結びついていない(見直し余地がある) ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由↓】 介護保険法及び市の高齢者保健福祉計画に基づき実施され、市の施策と結びついている。	
	② 公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？ 民間やNPO、市民協働に移行することは可能か？	☒ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 妥当である ⇒【理由↓】 高齢者保健福祉計画に基づいて、社会福祉協議会に委託して実施されているが、民間の事業所においても宅配サービスがあり種類も豊富であるため、他の見守りサービスとの利用も検討し調整が必要 事務事業の全部もしくは一部を外部に移行することが可能である。 ☒ 民間・NPO ☐ 市民協働	
	③ 維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	☒ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 適切である ⇒【理由↓】 食の必要性と見守りの必要性の見直し(包括支援センターのアセスメント実施)	
有効性 評価	④ 成果の向上余地 今後さらに事務事業の成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	☐ かなり向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ ある程度向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 向上余地がない ⇒【理由↓】 社会福祉協議会に委託して実施されている事業であるが、利用者の状況により他事業への変更も検討すべきである	
	⑤ 類似事業との統合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることができるか？	☐ 類似事務事業がある ⇒(類似する事務事業の名称を記入↓) ☐ 統合・連携ができる ⇒【理由と具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 統合・連携ができない ⇒【理由↓】 ☒ 類似事務事業がない	
	⑥ 休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	☐ 影響なし ☐ 休止・廃止ができる ☒ 影響あり ⇒【理由と影響の内容↓】 ☒ 休止・廃止できない ⇒【理由↓】 利用料の負担が増額となる可能性がある 高齢者の健康維持と見守りを行うことにより在宅が維持できる	
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費(コスト)を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 実績に基づく委託料のため	
	⑧ 人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？(事業のやり方の見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 委託事業のため	
公平性 評価	⑨ 受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	☒ 見直し余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 公平・公正である ⇒【理由↓】 ひとり暮らし高齢者及び高齢者のみの世帯で調理が困難になった方を対象としていて、アセスメントを行い利用者負担もあるが、実費負担ではないため、介護保険利用者との公平性にかける。今後は実費負担を含め検討が必要。	

3 評価(Check2)担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括(事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり	利用者は増加傾向にあるが、見守りを目的としていることを徹底し、真に配食サービスが必要となる対象者がどうか、地域の民生委員の意見も聞きながら対応する。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性(Check1の結果から定める)・・・複数選択可	(3) 改革・改善による方向性																					
☐ 廃止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 事業統合・連携(有効性⑤の結果) ☐ 公平性改善(公平性⑨の結果) ☐ 休止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 成果向上(有効性④の結果) ☐ 現状維持(全評価項目で適切) ☒ 必要性検討(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ コスト削減(効率性⑦、⑧の結果)	<table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト水準</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果水準</th> <th>向上</th> <td>☐</td> <td>☐</td> <td>☐</td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td>☐</td> <td>☒</td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td>☐</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> ※ 廃止・休止の場合は記入不要			コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	☐	☐	☐	維持	☐	☒		低下	☐		
				コスト水準																		
		削減	維持	増加																		
成果水準	向上	☐	☐	☐																		
	維持	☐	☒																			
	低下	☐																				
(2) 改革改善案について																						
① ② ③																						
(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策	(5) 事務事業優先度評価結果																					
① ② ③	成果優先度評価結果 コスト削減優先度評価結果																					